

令和 8 年 9 月 1 7 日

学校法人秋草学園

秋草学園福祉教育専門学校

校長 秋草 誠 様

秋草学園福祉教育専門学校

学校関係者評価委員会

委員長 内田 徹

令和 7 年度 学校関係者評価報告書

秋草学園福祉教育専門学校 学校関係者評価委員会は「令和 7 年度秋草学園福祉教育専門学校自己点検・自己評価報告書」に基づき、学校関係者による評価を実施しましたので報告いたします。

なお、学校関係者評価委員会は業界団体・関係施設の役職員、自治体職員、高等学校教員、卒業生、地域住民の代表等 6 名をもって構成しています。第 2 期 2 年目にあたる令和 8 年度は全委員が留任し、令和 7 年度事業報告等に基づいて、学校運営、教育活動等について下記のとおり評価を行いました。

記

1 総合評価

当校は地域に根付いた福祉教育専門学校として多数の介護人材を育成し、地域社会からの負託に応える教育を継続している。令和 7 年度の国家試験合格率は 80.5%であり、全国平均（70.1%）を上回った。前年度（96%）からは低下したものの、日本人合格者の合格率は引き続き 100%を維持しており、日本人学生に対する教育の質は高く評価できる。一方で、留学生については医療的ケア分野を中心とした学習面の課題が明らかになっており、今後の重点的な対応が必要である。

学生募集に関しては、日本人学生の確保が引き続き厳しい状況にある中、留学生の受け入れを積極的に進め、令和 7 年度は留学生 16 名が入学（前年度比 5 名増）した。日本人と留学生の比率を半々（20 名：20 名）とする方針のもと、指定校化や法人向け説明会・マッチング会の

開催など、募集活動の強化が図られている。財務面では、授業料の値上げ（2年間で計20万円）を実施したものの、教職員アンケートでは経営赤字傾向が課題として挙げられており、収支改善に向けた継続的な取り組みが求められる。また、欠員していた専任教員1名を採用し法令上必要な教員数を確保した点は評価できる。

地域貢献活動については、アダプトプログラムやフードパントリー、子ども食堂支援、やなせ福祉まつりの準備協力など、委員からも高い評価を得ており、学生の成長機会としても機能している。今後は、留学生増加に伴う教育体制の整備（日本語教育・生活支援・カリキュラム改定等）、経営改善に向けた具体的な取り組み、施設設備の老朽化対策、自己評価結果の教育活動への一層の反映が求められる。

2 評価項目の達成状況及び改善策等

(1) 教育理念・目標

<達成状況及び課題>

「愛され信頼される人材の育成」を理念とし、「この人と一緒に働きたいと思われる人」を意識した講話を実施した。理念と教育活動の関連づけを継続的に深めていくことが課題である。

<今後の具体的な取り組み等>

「一緒に働きたいと思われる人」を意識した指導を今後も継続していく。

(2) 学校運営

<達成状況及び課題>

留学生受け入れの強化により入学者増（16名入学、前年度比5名増）につなげたほか、東亜国際外語学院・所沢日本語学校等の指定校化を進めた。授業料値上げ（令和7年度より2年間で計20万円）を実施した。公開講座は単年度で終了となり、新規事業の創出は引き続き課題である。教職員アンケートでは経営赤字傾向、勤怠管理・資料管理の効率性が課題として挙げられた。

<今後の具体的な取り組み等>

文部科学省等の指導に基づき「教学改革」「学生募集・学生数」「付帯事業・外部資金」「管理コストの見直し」の4項目に重点的に取り組む。

(3) 教育活動

<達成状況及び課題>

留学生増加に伴い教育課程編成委員会でカリキュラムの見直しを行ったほか、授業評価アンケートに対する教員フィードバックを実施した。教員による学会（第31回日本介護福祉教育学会）での研究発表を行った。留学生増加に伴う教員負担の増大と学習支援の充実が課題である。

<今後の具体的な取り組み等>

令和9年度の新カリキュラム改定（日本文化への理解科目の導入等）に向けた準備を進めるとともに、午前中心の授業構成を検討し自由時間・ボランティア時間の確保を図る。委員会活動を通じた組織性・社会性の学びとコミュニケーション能力の向上を図り、教員の合同研修会等への参加を推進する。

(4) 学修成果

<達成状況及び課題>

国家試験合格率は80.5%（全国平均70.1%）となり、全国平均を上回った。日本人合格率は引き続き100%であった。2年生を対象に週1回90分の補習を実施したほか、埼玉県高齢者福祉研究大会で学生発表が優秀賞を受賞し、事例研究発表会（秋草学園短期大学にて開催）についても委員から高い評価が寄せられた。一方で、留学生の医療的ケア分野における学習面の課題が判明した。

<今後の具体的な取り組み等>

外国人向け国家試験対策講座（埼玉県介護福祉士会等との連携）を活用するとともに、国家試験に活用されている日本語の表現について分析を踏まえた国家試験対策の再構築を図る。

(5) 学生支援

<達成状況及び課題>

相談内容に応じて担当（社会福祉・授業内容・医療分野）を明確化したほか、留学生の社会保険・生活相談等にも対応した。ボランティア活動（延べ192名）や新歓・レクリエーションスポーツ大会・学園祭・後夜祭等（延べ274名）への参加を促進した。経済的に厳しい学生や精神的に不安定な学生への支援は引き続き重要な課題である。

<今後の具体的な取り組み等>

遅刻・欠席が目立つ学生については早期に保護者と連携する。卒業生のキャリア支援として、現況把握・情報提供のための QR コード登録（目標 150 名）を推進する。

(6) 教育環境

<達成状況及び課題>

校舎内雨漏りの修繕工事、介護実習室のリフト車輪交換を実施した。開校以来整備されていない設備もあり、老朽化した施設・備品への対応が引き続き課題である。

<今後の具体的な取り組み等>

老朽化施設について優先順位に基づく修繕を進めるとともに、最新の福祉用具について外部施設見学等を活用し情報収集を図る。

(7) 学生の受け入れ募集

<達成状況及び課題>

高校ガイダンス 53 校、高校訪問 15 校に参加し、オープンキャンパスには 78 名が参加した。定員 40 名に対し留学生と日本人の比率を半々とする方針を設定し、有資格者推薦制度（給付型奨学金 10 万円）を新設した。留学生受け入れ法人向け説明会・マッチング会を開催し、令和 8 年度は留学生 10 名（ベトナム 2、ミャンマー 1、ネパール 6、中国 1）が入学した。日本人学生の確保は引き続き難しい状況にある。

<今後の具体的な取り組み等>

定員 40 名（うち留学生目標 20 名）の確保に向け、奨学金制度の周知を図るとともに、高校ガイダンス・オープンキャンパス・HP・SNS 等を通じた広報活動を継続する。

(8) 財務

<達成状況及び課題>

令和 7 年度より授業料を値上げ（2 年間で計 20 万円）した。介護福祉実習指導者講習会は 34 万円の利益となった一方、実務者研修教員講習会は前年度比 12 万円減、施設貸出も 12 万円減となった。教職員アンケートでは経営赤字傾向が課題として挙げられている。

<今後の具体的な取り組み等>

奨学金制度の周知を図るとともに、「同行援護従業者養成研修」の開講を推進する。手話講座・日赤講習等の任意特別事業についても収支改善に取り組む。

(9) 法令遵守

<達成状況及び課題>

令和6年度に基準より1名不足していた専任教員について採用活動を進めた結果、令和7年度に採用が実現し、必要な教員数（3名）を確保した。

<今後の具体的な取り組み等>

自己評価結果に基づく改善事項について、引き続き着実に取り組んでいく。

(10) 社会貢献・地域貢献

<達成状況及び課題>

アダプトプログラム（東所沢駅周辺清掃、延べ111名参加）、フードパントリー（年2回）、子ども食堂支援（年3回）、赤い羽根共同募金、サンタを探せ、やなせ福祉まつりの準備手伝い等、地域貢献活動に積極的に参加した。委員からは、学生が地域から感謝され期待される経験を通じて成長していることや、地域の活動が学生の参加により活気づいていることについて高い評価が寄せられた。

<今後の具体的な取り組み等>

ボランティアサークルの設立を検討するなど、施設訪問や地域活動への継続的な参加を図る。

学校関係者評価委員会委員（五十音順）

石塚 清和 サービス付高齢者住宅レジデンシャル小手指 Sakura 施設長

内田 徹 社会福祉法人聖久会 理事長

大舘 寿貴 所沢市役所福祉部 次長

川口 竜也 社会福祉法人所沢市社会福祉協議会 企画総務課 在宅生活支援室長兼介護保険認定調査事務所長

武村 紗織 埼玉県立豊岡高等学校 教頭

山足 巖 東所沢五丁目自治会 会長